

「みよし男女共同参画プラン『パートナー』2019－2023（案）」の

パブリックコメントの結果について

本計画（案）について、パブリックコメント制度による意見募集を行った結果、市民の皆さまから貴重な意見をいただきありがとうございました。

寄せられたご意見について、みよし市の考え方を公表します。

◆実施期間：平成30年11月1日（木）から平成30年11月30日（金）まで

◆意見数：5件（2人）

◆寄せられた意見とみよし市の考え方

意見	市の考え方（対応）
<p>(1)みよし市議会に女性議員がいないことに疑問を感じます。市政が男性優位であることを象徴していると思います。</p>	<p>(1)男女比での優位性があるとは考えておりませんが、今後、より議会をご理解いただくために、更なる情報発信に努めてまいります。</p>
<p>(2)女性が一生涯輝き、働き続ける事が重要だと思います。妊娠、出産し職場復帰して、子育てをしながらでもキャリアアップを目指す環境が必要です。</p> <p>特に就学前の子どもは体調を崩し易い為、その都度会社を休む事になり、大半は夫ではなく妻が休む傾向にあると思われまます。妻も会社を休む事なく働き続ける為には『病児保育の設置』が必要不可欠だと思います。近隣の市町村には設置されているのに、なぜみよし市にはないのか疑問に感じます。</p> <p>ファミリーサポートの病児の内容を見ると非現実的で実用性に欠けています。実際、以前聞いたところファミリーサポートで病児利用はこれまでに2件程だと聞きました。</p>	<p>(2)病児保育事業はみよし市においても必要であると認識しています。</p> <p>本市では、ファミリー・サポート・センター事業により実施していますが、利用手続等の見直しにより実用的で利用しやすい制度となるよう検討してまいります。</p>
<p>(3)アンケートを取っているが、その方法の詳細を知りたいです。年齢層によっても意見が大分違うと思います。</p>	<p>(3)プラン案に掲載しているアンケート調査結果は、平成29年11月に実施した「男女共同参画社会に関するアンケート調査」の調査結果で、市内在住の16歳以上の男女各500名（無作為抽出）を対象に実施し、郵送による調査票の配布及び回収により、372通の回答がありました。</p>

なお、回答者の年代別の割合は、

10代	2.2%	20代	9.7%
30代	13.2%	40代	22.4%
50代	18.6%	60代	33.9%

となっており、50代及び60代の回答割合が過半数を超える結果となりました。

(4)ワークライフバランスについて

過去5年で、内閣府指導の「ゆう活」をはじめ、制度、予算が整備用意されてきたと思いますが、今後、5年は、直近アンケートからも分かるように個人の意識改革が必要になると考えます。

例えば民間活動から生まれた「育メン」そして今では、解決策としての「イクボス」「イクボス宣言」を実施する市町村も増えてきました。

みよし市は、トップからの意識改革の表明、市長をはじめ予定は、ありませんか。

(4)本市では、子育て総合支援センターでイクメンイベント(未就園児と父親で参加する親子あそびなど)を開催しています。

「イクボス宣言」を表明する予定は現在ありませんが、他市町の状況を参考にしながら検討してまいります。

ワーク・ライフ・バランスの推進に関する施策については、プラン案の基本目標Ⅱ－方針4－施策の方向①「男女がともに活躍できる職場環境づくり」に基づき、県が進めるワーク・ライフ・バランス推進運動に協力するなど、市内企業等に対してワーク・ライフ・バランスの前進に向けた取組を推進していきます。

また、これから社会へ進出する大学生へ男女共同参画意識の啓発と普及を図るため、ワーク・ライフ・バランス等をテーマとした男女共同参画啓発事業を行っています。

(5)地域参加の不平等について

引っ越してきた住人自体男女問わず、行政への参加、意見発信について弱者となりやすく、その対策を具体的に見えるものになりませんか。

アンケートからも行政への関わりを求めているように思います。

そこから地域性に合うもの含めた解決策が生まれると思うが、その対策は？

(5)居住年数に関係なく、地域に住む人が主体的にまちづくりに取り組める環境の整備が重要と考えています。

プラン案の基本目標Ⅱ－方針1－施策の方向①「男女が支えあう地域づくり」に基づき、コミュニティ活動への支援を通して、居住年数や年齢、性別に関係なく、地域に住むすべての人が個人の能力を発揮できるよう、コミュニティ活動の活性化を図っていきます。